



観 光 竜 王

Sight seeing RYUO

第81号

☆

発行

竜王町観光協会

〒520-2592

滋賀県蒲生郡竜王町小口3番地

竜王町総合庁舎内1F

TEL 0748-58-3715

FAX 0748-58-3730

<https://ryuoh.org>e-mail info@ryuoh.org

竜王ブランドの確立へ



竜王町観光協会
副会長 邑 地 礼 子

新年あけましておめでとうござ
います。

皆様には、輝かしい新春をお迎
えのことと心からお慶び申し上げ
ます。

平素は観光協会の事業運営に対
し格別のご支援ご協力を賜り厚く
御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感
染症の終息も中々見えず、竜王町
の伝統的な祭りも規模を縮小、ま
たは神事のみの催行となりました。

そんな中、昨年十二月竜王町山
之上に伝わる「ケンケト祭り長刀
振り」を含む、全国各地で伝承さ
れてきた民俗芸能「風流踊」が、
ユネスコの無形文化遺産に登録さ
れたことは大変喜ばしいニュース
であり、今後の文化継承の大きな
力となりました。

毎年、町内外オーナーの方々
のご協力で、植えていただいで
いる道の駅アグリパーク竜王の
チューリップはSNS上で大変
評判を得ています。「#近江百
景を作ろう」フォトコンテスト
二〇二三年の投票にて約三千三百
画像中、同百景の第五番に選ばれ
ました。これは訪れた人が見事に
咲いたチューリップに感動してS
NSに投稿されたもので、コロナ
禍にもかかわらず多くの方々が
チューリップ畑に訪れ、道の駅も
大変賑わったようであります。

心に残る景観を整えることで多
くの人が観光に訪れ竜王町で買
物をしてゆくと、「花」は人
の購買行動に大きく影響を与える
もので、まさに正のスパイラルを
呼ぶものと考えます。

また、令和二年より研究会を立
ち上げ取り組んで参りました「竜
王環境王国」が、昨年十二月に長
野県小諸市で開催された米・食味
分析鑑定コンクール国際大会の会
場にて認定され、環境に取り組む
まち・竜王ブランド確立への第一
歩となりました。

「竜王環境王国」は、豊かな自
然と美しい景観、美田を守り、人
の心を豊かにする環境づくりを目
指しており、農畜産林業だけでな
く商工業も一体となって取り組む
べきと考えます。

環境づくりに取り組むことで、
人々の信頼と評価が得られ、竜王
町産全ての農産品や特産品の「竜
王ブランド」の確立、ひいては竜
王町全体のイメージアップに繋が
ると考えます。

今年もより一層の積極的な情報
発信と誘客に取り組んで参りたい
と存じます。どうか皆様のご支援
ご協力を宜しくお願い申し上げます。

結びに、皆さまのご健勝とご多
幸を祈念いたしまして年頭のごあ
いさつとさせていただきます。

ユネスコ世界遺産体験



竜王町歴史倶楽部

杼木 捨蔵氏
(山之上)

私たちの子供の頃は「昔」が沢山残っていて、遊びから家事の中の役割と字の行事などを通して知恵・知識を身につける機会に恵まれていました。

大人は、勤めに出る人は僅かで、殆ど農家・自営業として集落内で仕事をされていました。農家であった実家では、農作業の出来ない雨降りなど、あちこちお互いの家を行き来してお茶を飲みながら、時おり地元の歴史や文化も話題にしながら時間を過ごしていました。私は、その話を傍で聞きながら、好奇心を掻き立てられ、想像をし、質問もしていました。当時を思い出すと「もの知りおじさん」があれほど多かったのは凄いと感心し、伝承の大切さを改めて思います。これは物心がついた時から家族・地域の連帯感を持たせる生活習慣が定着していたと思います。毎日、学校から帰ると友達が集まって集落内は子供の声で一杯。上級生からいい事もそうでない事も教えられ、

沢山の遊びのノウハウが身に付きました。これらのノウハウは、大人になってからの仕事にも役立ちました。こういった環境に育ってこそ地域への誇り・愛着が身についたと思います。

かつて山之上は、戦略・戦術的に軍事拠点であったことが想像できます。地名にも武士ヶ谷・菖蒲(尚武)谷・切倒・馬駆け馬場・隠れヶ谷・獅子垣(防壁)など戦を連想させるものが多いが残っています。

杉之本神社(牛頭天王をお祀りしている)のケンケト祭りも「敵中での行軍」を表し、襲撃を跳ね返ししながら進む様子で、最後に披露する「仕舞振り」は「戦果」を上げたその戦いぶりを神に報告する様子を表しております。昔から喧嘩祭りとも言われており、怪人も出る有様でした。そのために事前は無事役目が果たせるように日野川での「水行」で体を清め、食事は精進料理と決められています。

また、一緒に祭りを行う隣の東近江市宮川町の踊りは、日本舞踊の原点ともいわれています。この宮川とは、七月の「いもち送り」で松明を持って水田を廻った後、双方の子供が境界にあ

る川で対峙、「戦闘開始！」の合図で石合戦をしておりました。これは親も公認で、今では考えられません。

今一つは「すき焼きの発祥地」であります。牛車(ぎっしや)から農耕などの使役のために伊賀、甲賀、蒲生に牛が導入されました。蒲生は、餌となる穀物や草なども豊富にあり、比較的坂も緩やかで、他に比べると脂も乗り美味だったこと、さらに蒲生野は狩場として皇族や貴族の交流の場であったことから、すべての食事は、さらに美味しくとの努力が積み上げられてきたと思われる。

仏教が広がるにつれて四足の動物を食べることが禁止されました。しかし、各地で工夫して食べていたようです。兎は一羽二羽と数え、イノシシは山クジラと称して食べていたことは有名です。他にも夫々知恵を絞っていたと思われる。山之上でも万一に備えて言い訳ができるよう「牛三昧」というところを造って牛の骨や皮の形を整えて埋葬していました。すき焼きは御馳走ですが、鍋などの食器を使わず「から鋤」の広い刃を使って焼いたために「鋤焼き」と呼び、さらに用心して肉の焼ける音を表す「じゅんじゅん」と言っていました。江戸時代尾張藩に属しており、藩から時々訪れる役人を「じゅんじゅん」で接待し、様々な規

制を緩めて貰い、実質年貢(縄伸び)で面積が広い)をまけて貰っていました。

さらにより美味しいものをと元牛の選び方、飼料、日常の手入れなどの工夫・改良を重ね、山之上住民同士で情報交換しながら数百年、既も常に家族の目が届く玄関近くに設け、より良い牛肉作りを目指しました。

明治に入り、外国人も増え一般的に日本の牛肉の量・質共に不満が高まりました。要望により政府が対策に乗り出した時、山之上の竹中久二氏が手を挙げ要望に応えました。そして、郷土料理であるすき焼きを振る舞ったところ絶賛され、鍋を使った「牛鍋の米久」を開業し成功を収めました。

竜王町、そして蒲生野は地名にも残っているように数多くの発祥地であり、これらの歴史・文化を生かすことで町の将来展望を開きたいものです。



シリーズふるさと探訪 (62)

法隆寺随想 雪野寺童子塑像の源流を訪ねて

山本 茂氏(美松台)

川守の妹背の里に町内の歴史文化財を展示した資料館がある。雪野寺(龍王寺の前身)跡から発掘された童子の塑像(レプリカ)があった。かの随筆家で美の探求者として著名な白洲正子(著書「近江山河抄」)の中で、塑像は白鳳期の作であり後の天平期のものに比べ、美しくピュアであると賞賛していた。私は長らくこの美しさの差が気になり、現存する法隆寺の塑像群と比較鑑賞したいと思っていた。この拙文は縁あって歴史倶楽部の例会に参加した法隆寺周辺の現地研修・随想録である。

バスは名神竜王インターを西進し、第二京阪道を経て近畿道に入り、大阪平野を南下して、八尾市付近を走っている。ここは飛鳥時代、河内国洪川郡と呼ばれ、排仏派・物部氏の所領であった。仏教推進派の蘇我氏との対立が深まり五八七年、世にいう丁未の乱が勃発する。蘇我氏一族と厩戸皇子(聖徳太子)らは物部守屋の館を三回襲撃し、撃退された。皇子は四天王像を彫り、戦勝祈願を行い戦うと、遂に物部守屋を破り一族を滅ぼした。後に太子はご加護に感謝し、摂津国難波に四天王寺を建立したという。バスはその後、西名阪道に入り、法隆寺インターを降りると斑鳩の町、法隆寺に着いた。バス

を降りると班別行動。私達の班についてガイドさんは、小柄で元気な女性。南大門を前に、歯切れのよい丁寧な解説が始まった。

創建時の法隆寺は六七〇年に火災で焼失し、今の伽藍は七一年ごろ再建されたものらしい。南大門をくぐり正面に見えるのが中門。門を守護する二駆の金剛力士像が眼光鋭く鎮座する。通用口を入ると伽藍を囲んだ回廊があった。見ると柱の中央に彫らみがある。エンタシス! 中学時代に学んだ古代ギリシャ様式である。

境内の左手には五重塔。高さ約三・五m、七月の青空を背景に塔の高さを感じる。それは初重の屋根から五重の屋根までの大きさの通減率を大きくし、塔を先細く見せているためだ。塔内見学は網目越し外からの拝観。中は暗く位置関係は分かるが詳細は見えない。ガイドさんが、手持ちの拡大写真を見せながら四面に展開する塑像群の場面説明をしてくれた。釈迦に関する四つの説話に由来する場面(東面・文殊菩薩と維摩居士、西面・分舍利、南面・弥勒浄土、北面・釈迦の涅槃)であった。塑像は暗がりの向こうでぼんやり見えるが表情まではわからず、楽しみにしていた童子の像は見つけられなかった。

次に金堂の見学。外観は円崩しの高欄など、飛鳥時代の様式をよく反映したどっしりと風格があり、四隅の柱に据えつけられた昇り龍と下り龍が華を添えている。堂内は法隆寺の本尊である釈迦如来、薬師如来、阿弥陀如来の釈迦三尊が鎮座。見上げれば、天人と鳳凰が飛び交う天蓋が吊されていた。ふと仏前の供花が眼に入った。何の木? 思わず口に出てしまう。背後から

「ヒバの木かな?」と返事が。元公民館長さんだ。一同が堂外へ出ると同じ樹木が立っていた。元公民館長さんは「あれは同じ種類のコノテガシワ。葉が、幼い児の手の広げた形なんや」と説明される。すると傍に居たガイドさんが真剣な面持ちで「どんな字ですか」と問い、すばやくノートの紙面いっぱい「児の手柏」と書いた。その素直で真摯な態度に、会員の方と私は目を見合わせ、感心しきりであった。きつと良いガイドになれることだろう。

次の大宝蔵院には、法隆寺に伝来した重要な仏像や物品が納められている。百済観音像は、高さ二〇九・四cmのスラリとした素朴なお顔の観音菩薩。作者や制作した目的も不明だが飛鳥時代に制作されたらしい。

この後、一行は夢殿の外観を愛で、中宮寺ではアルカイック・スマイルの如意輪観音に感嘆する。先ほどのエンタシス・百済観音と重ね合わせ、まるでヘレニズム文化の香り溢れるひと時であった。

最後はバスで法輪寺へ。ここで住職とガイドさんの長老より塔の再建話を拝聴、あの法隆寺・宮大工、西岡常一棟梁のいきざまを偲んだ。バスは斑鳩の里を後に帰路についた。

研修の日から百日過ぎた今、振り返る。千三百年の長きにわたり法隆寺が往時そのままに存在していること自体、もはや奇跡に近い。それを可能にしたのは、木造の建物を絶えず修復・維持する技術に加え、太子信仰のように、寺を大切に守り続ける人々によつてこそ、今も生き続けている。そして今更ながら気づいたこと、それは、あの雪野寺の童子塑像や百済観音像、中宮寺の如意輪観音像、コノテガシワを見るガイドさんの振舞こそ「素直な心」から生まれた表現、表情だったのではないか! 素直さの現身(うつしみ)であったと思うのである。



雪野山童子塑像

竜王観音禅寺



住職 吉田 叡禮 氏

聖徳太子薨去（こうきょ）一四〇〇年を記念する多くの催しが行われていたが、昨年より全国で行われている中、聖徳太子の文化や伝説が全国で最も多く伝えられている東近江地域では、東近江市、近江八幡市、日野町、竜王町の二市二町の行政や社寺、商工会、観光協会がともに手を携え、「聖徳太子一四〇〇年悠久の近江魅力再発見委員会」を発足し、様々な取り組みを行っています。

ピアノリサイタル、フォトロゲイニング、聖徳太子江州音頭、創作ミュージカル、寺社巡り、秘仏や文化財などの特別公開、期間限定特別御朱印の授与など、既にご存じの方も多いことでしょう。今後も色んなイベントを企画していきます。今年十二月三日(日)にこの事業はクロージングしますが、歴史を伝える社寺は、次の一〇〇〇年に向け、さらなる展開を目指し、既に準備を始めています。

加盟社寺は、東近江市の太郎坊宮、百済寺、瓦屋禅寺、石馬寺、市神社、近江八幡市の観音正寺、長命寺、長光寺、願成就寺、日野町の正明寺、竜王町の観音禅寺。太子ゆかりの社寺は滋賀県全体で二七〇ヶ所を超え、この十一社寺が必ずしも近江の太子伝説を代表するものではないかもしれませんが、今回、「近江聖徳太子霊跡」として不思議な縁で結ばれました。

ボーダーレスのこの取組みは、地域住民に地域への誇りやメリットを感じていただきたいという願いのもと、東近江の地が太子と深い関わり

を持ちながら多くの文化を育み、人びとの生活を支えてきたという、地元の歴史を改めて知るとともに、その魅力を内外に発信し、地域の産業や観光事業などが振興、発展することを目的としています。太子の名を冠した商品開発や持続可能な企画など、皆さまの積極的な参加をお待ちしています。

聖徳太子は渡来人を通じて大陸の木工、建築、石工、灌漑、治水、兵法、天文学、暦、占いなど、当時の最先端技術を日本に伝えました。その舞台が、ここ東近江なのです。

竜王町では、牟禮山の法満寺と鏡山の雲冠寺が聖徳太子の開いたお寺として知られていますが、両寺とも戦国期に廃寺となりましたが、法満寺の別院であった小口の観音禅寺は、聖徳太子御作の十一面観音像を本尊として伝えており、このほど特別に大開帳を計画しています。

二月二十日(月)から三月二十六日(日)まで夜間ライトアップを行います。二月二十三日(祝)には十一社寺の宮司・住職が観音禅寺で法要を行い、最終日の三月二十六日(日)には女人舞樂が奉納されます(一日二回、夜は篝火のもと幻想的な舞いがご覧いただけます)。聖徳太子が物部守屋と戦った時に奏し、「舎毛の音」が勝利を告げたという陪臚と、万葉衣裳で舞う柳花苑が奉納されます。

【二月二十日(金)】 回向柱開眼法要。

【二月二十三日(祝)】 高祖聖徳太子・開基良弁僧正御聖忌ならびに秘仏開扉法要。

【三月一日(水)】 中日法要。

【三月二十六日(日)】 結願法要。舞樂奉納。



今後の観光協会イベント

びわ湖のひな人形めぐり

二月四日(土)より

二月二十三日(祝)

三月二十六日(日)

三月三十一日(金)

観音禅寺

三月二十六日(日) 午後より

竜王町公民館、アグリパーク

結願法要 舞樂奉納

竜王、竜王かがみの里、岡喜本店、毛利志満本店、苗村神社、竜王観音禅寺

竜王の聖徳太子ゆかりの仏像めぐりツアー

大開帳前夜祭

二月十九日(日) 午後二時より

竜王町公民館大ホール

太鼓演奏、講談、住職の講話

観音禅寺 夜間ライトアップ

二月二十日(月)

三月二十六日(日)

観音禅寺 秘仏御本尊 大開帳

鏡の里元服式

三月十二日(日)

午前八時三十分より

鏡神社、道の駅竜王かがみの里

あとがき

新年明けましておめでとうございます。昨年は色々とお世話になりました。有り難うございました。本年も宜しくお願い申し上げます。

令和五年も幕が開き、早二週間余りが過ぎようとしています。昨年からは本格稼働しました聖徳太子一四〇〇年事業も今年一年で終了します。今年は、地元の竜王観音禅寺で二月二十三日(祝)から三月二十六日(日)まで御本尊の秘仏十一面観世音菩薩の大開帳法要が営まれます。最終日の結願法要では、舞樂が奉納されます。観光協会も聖徳太子御作と伝わる五箇所のゆかりの仏像を巡るツアーの参加者を募っています。またとない機会です。ご参加をお待ちしています。

昨年末より滋賀県下の観光協会が滋賀の魅力を存分に発揮できる体験コンテンツの造成とSNSでの販売が本格化しています。観光協会では、既に三件のコンテンツを造成し販売準備しています。今後あらゆる事業を工夫し魅力ある体験コンテンツに仕立て上げ販売を目指します。皆さまのご協力をお願いします。

(観光協会 事務局)